

【がんばる市内企業の事業活動や事業展開を紹介します】

がんばる大洲企業

まことや

～地元で愛されるパン屋を目指して～

◇所在地 大洲市長浜

◇電話 52-0909



和菓子屋として創業した弊店は、現在、パン・洋菓子店を営んでいます。創業から50年以上経ち、従業員3人とともにパン作りなどに励んでいます。

弊社では、パンの素となる生地を一切冷凍保存せず、毎日一から作ります。それは、少しでも鮮度の高いおいしいパンをお客様に届けたいという強い思いからです。

パンが商品として店頭で並ぶまでには、生地作りから始め、およそ4、5時間もかかります。生地を粉ね上げの作業やあんこ作りなど、一つひとつの工程を手間暇かけて行います。



5年くらい前から、インターネットなどによる販売を始め、徐々にではありますが、販路拡大に努めています。現在では、関西や関東からの注文も入るようになり、新たな販路の開拓に手応えを感じています。

弊店は、先代から続く「おいしく・懐かしい」味をモットーに、時代に流されない昔ながらの味を心がけています。お客様の笑顔にやりがいを感じながら、丹精込めて商品作りを行っています。また、人との出会いも多く、リピーターになって訪れていただいたいは、本当にうれしく思います。

今後も、「念ずれば花ひらく」を信念に、地域に愛されるパン屋を目指して頑張ります。

焼きたてのパンを、ぜひご賞味ください。

文化財

麟鳳閣

愛媛県指定有形文化財(建造物)
大洲市所有

麟鳳閣は、新谷藩の陣屋内に存在した建物の一つで、幕末の慶応4年(1868)3月に建築され、評定所や謁見所の役割を果たしていたと考えられています。

明治4年(1871)の廃藩置県以降は、一時、新谷県庁舎として、また明治5年からは令教小学校(現新谷小学校)の校舎としても利用されました。

建物の構造は、木造平屋建・入母屋造の棧瓦葺になっていて、内部には付書院などを設けた格式の高い一之間のほか、4つの次の間で構成され、部屋の周囲には幅1間の畳敷の廊下が巡らされています。建物への細工は少ないものの、格調高い豪快な造りであり、陣屋跡に唯一残る建物として貴重なものです。

(昭和36年3月30日指定)

野鳥

イワツバメ(岩燕)
スズメ目ツバメ科
大きさ13cm

冬でも、晴れ渡る青空が出るような日に、ツバメが飛び舞っていることがあります。昔から越冬ツバメと言われているのは本種のことです。防寒対策も万全で、足の指まで羽毛に覆われています。

元来、高い岩山で繁殖していましたが、最近はコンクリート製の橋げたなどで子育てをするようになりました。ヘビやカラスなどの外敵が近寄れない所なので、普通種のツバメよりも繁殖率が上がり、生息数を増やしています。飛んでいる時に燕尾が短く、背中に見える白い帯が特徴です。他のツバメたちが南で越冬するのに対し、餌の乏しい冬に防寒具をそろえ、同じ場所で争いが起きないように生き抜く姿を見ていると、人間ももう少し譲り合いの精神があれば、争いごと減って、幸せに暮らせるような気がします。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

大洲の食育

学校給食における
地産地消の取り組み

昨年9月に、新大洲市学校給食センターが稼働を開始しました。

大洲市では、新センターの整備に併せて、学校給食で使用する生鮮野菜・果物の地産地消率50%を目標に掲げています。そのため、JA愛媛たいきや(株)大洲給食PFIサービストの協議を重ね、大洲産の農産物を子どもたちへ供給できる体制づくりに努めてきました。

献立を考える栄養士をはじめ、食材を供給する「愛たい菜」や新センター、調理を行う事業者、そして何より生産者による『地元産の農産物を子どもたちに』の思いで取り組みでいます。



その結果、平成24年4月から11月末までの地産地消率(※)は、累計で62・11%であり、目標以上の水準を維持しています。なお、お米は大洲産を100%使用していません。

今後も、安全で安心な地元食材の供給に努め、子どもたち大洲の味を伝えていきます。また、生産者や給食に関わる人と、子どもたちとの交流の機会を提供するなど、給食を通じた食育へとつなげていきたいと考えています。

学校給食における地産地消率は、大洲市公式ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

年 度	地産地消率
平成20年度	18.1%
平成21年度	19.2%
平成22年度	29.5%
平成23年度	44.3%
平成24年度 (11月末現在)	62.1%

※新センターで使用する生鮮野菜・果物のうち、大洲産の食材を使う割合(重量ベース)

とっておきの撮影 スポット探しています

「この季節に」「この場所から」「この角度で」など、あなただけのとっておきの撮影スポットを教えてください。

みなさんからご紹介いただいた写真・場所は、市のホームページなどで定期的に紹介します。

【情報の提供方法】

- ▽様式などは特に取りません。
- ▽住所・氏名・電話番号・題名・コメント・撮影場所を記載してください。
- ▽郵送・FAX・メール・持参いずれも可

【問い合わせ先】

商工観光課観光係
☎24 2111 (内線532)
FAX 24 0080
メール
syoukougankouka@city.ozu.
ehime.jp

【観光係職員のお薦めショット】

「冬の臥龍山荘」

雪に覆われた臥龍山荘。いつもと違う雪化粧した姿を見せられます。年に数回しか見ることができない貴重な景色です。



「ライオン岩」

長浜町櫛生の海岸沿いを走っていると見える大きな岩。地元では結構有名で、良く見るとライオンが寝そべっているように見える?





1月4日(金)

新年の思いを筆に込めて ～第45回大洲市小中学生新春書き初め会～

大洲小学校と大洲南中学校で、毎年恒例の新春書き初め大会が行われました。

市内25校の児童生徒232人が、「にじ」・「世界」・「思いやり」などの課題文字に挑みました。子どもたちは、真剣な眼差しで筆を運び、より完成度の高い作品を目指していました。

審査で入賞した児童生徒から選ばれた12人の子どもたちは、今後、広報大洲の題字を飾ってもらうこととなります。



12月22日(土)

冬の風物詩 ～豊茂イルミテヤ～

豊茂地区の冬を彩る「豊茂イルミテヤ」が、今年も華々しく輝きました。

今年は、コンサートやバザーが行われ、光の並木道が温かい光で多くの人を包み込み、夢と感動を与えていました。

また、周辺の住宅街にも色とりどりのイルミネーションが飾られ、年末年始に多くの人々の目を楽しませていました。



1月5日(土)

心も体もポカポカに ～七草がゆ歩こう会～

今年で第32回目となる肱南自治会主催の七草がゆ歩こう会が開かれ、約400人の市民が参加しました。

この日は厳しい冷え込みとなりましたが、参加者たちは少彦名神社や大洲神社などを巡り、ゴールの大洲城広場までの約6キロを歩きました。

ゴールでは地元婦人会からおかゆが振る舞われ、参加者たちは「おいしい」と、口一杯におかゆを頬張っていました。



12月27日(木)

住民の交通安全を祈って ～交通安全祈願祭～

年末の交通安全県民運動の一環として、河辺基幹集落センターで、「交通安全祈願祭」が執り行われました。

老人クラブ河辺支部と河辺中学校からそれぞれ「しめ飾り」や「折鶴」が奉納され、参列者は交通安全を祈願しました。

祈願祭後の交通茶屋では、「しめ飾り」と「折鶴」などを河辺中学校の生徒や交通安全協会の人たちでドライバーに配布し、安全運転を呼びかけました。

高齢者叙勲

瑞宝双光章を受章



村田 喜重 さん
(中村)
元大洲小学校長

村田さんは、長年にわたり学校教育にご尽力されたご功績により、このたび、瑞宝双光章を受章されました。

社会福祉事業功労者として厚生労働大臣表彰を受賞

大野さんは、大洲市福祉事務所の生活保護法による嘱託医として、15年以上務められました。専門的立場から助言指導を行うなど、生活保護行政の適正な運営にご尽力され、その功績が高く評価されました。



大野 かつや さん
(大洲)

二宮さんは、喜多地区社会福祉協議会会長として、地域のためにご尽力されました。長きにわたり、率先して共同募金運動の推進に取り組むなど、その功績が高く評価されました。



二宮 すなほ さん
(田口)

子育てで困ったら「そよ風」に！ 大洲子育てサポートそよ風の活動をご紹介します

○大洲子育てサポートそよ風とは？

平成20年度、大洲市における家庭教育支援の一環として、前身となる「喜多つ子サポートイングリッシュチーム」が発足しました。

平成23年度から、大洲市教育委員会が実施主体となったことを受け、現在の「大洲子育てサポートそよ風」にチーム名を改めました。

「大洲子育てサポートそよ風」では、子育てや子どもに関する悩み・心配事について、相談や助言などの支援活動を行っています。

当チームには、元教員・臨床発達心理士・主任児童委員・元保育士・人権擁護委員・家庭相談員・保健師など、多彩な資格を有するスタッフがいます。

子育てに悩む人たちの身近なサポーターとして、自ら出向く訪問型の支援を行うことを活動方針としています。さらに、関係機関との調整役となり、チームワーク・ネットワーク・フットワークの『3つのW』をモットーに、日々活動を行っています。

○どんなことをしているの？

随時相談を受け付けたり、毎月1回子育てのヒントになる情報提供のため、「そよ風通信」を発行し、市内の保育所・幼稚園、小中学校を通して家庭へ配布しています。

また、定期的に開催される児童館の「子育て広場」で、スタッフが学習会の講師を務めたり、小学校PTAと共催して、発達段階の子どもを持つ保護者の悩みや心配事を、自由に話し合う場を設けています。

(PTA子育て座談会)



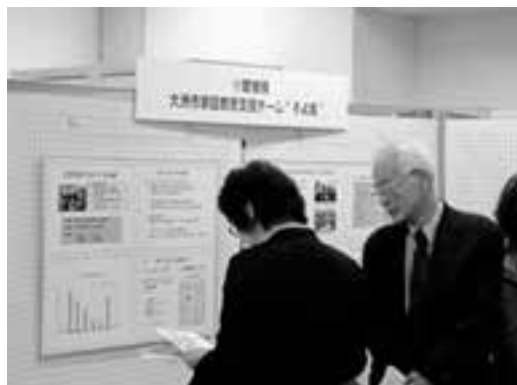
「大洲子育てサポートそよ風の取り組み」

大洲子育てサポートそよ風の取り組みは、全国的にも高い評価を受けています。

昨年の10月25・26日に、甲府市総合市民会館で開催された全国社会教育委員研究大会山梨大会で、愛媛県代表として事例発表を行いました。

また、11月20・21日には、埼玉県の国立女性教育会館で開催された全国家庭教育支援研究協議会で、実践交流会に参加しました。

この協議会は、文部科学省から参加要請を受けたもので、他の家庭教育支援チームに対し活動内容を紹介しました。



【相談について】

毎週、火・木・金曜日の午前9時から午後4時まで、相談を受け付けています。

相談日時や場所については、ご要望に応じて柔軟に対応していますので、お気軽にご相談ください。

【問い合わせ先】

大洲子育てサポートそよ風

☎ 24 4580

思いをギュッと詰め込みました
新しい0級グルメが誕生

大洲市の産物を生かした新たな料理の開発および伝統的な料理の掘り起こしを目指し、「0級ご当地グルメコンテスト2012」(市および大洲特産品開発事業実行委員会主催)を開催しました。

去る12月2日(日)にリジエール大洲にて、作品プロ部門、作品アマ部門およびジュニアアイデア部門の入賞者の表彰式と、作品プロ部門上位入賞作品などの試食会が開催されました。

各部門の最高賞である三ツ星賞をご紹介します。



表彰式の様子



作品プロ部門
坂本龍馬脱藩にぎりめし



作品アマ部門
里芋の一口揚げ春巻き



ジュニアアイデア部門
大洲箱ずし

作品プロ部門三ツ星賞を受賞した『坂本龍馬脱藩にぎりめし』は、アユ飯、菜飯、鯛飯の各おにぎりで、表面におかゆ、麦みそ、いもたきのサトイモを裏ごしして混ぜたものを塗り、それをあぶって作られています。考案者の兵頭さんは、「大洲を通して脱藩していく龍馬に持たせてあげたかったもの」として、この作品を考案したそうです。

作品アマ部門三ツ星賞を受賞した『里芋の一口揚げ春巻き』は、サトイモにシイタケなどを加えた具材を一口サイズの揚げ春巻きにしたもので、ゆでたサトイモのホクホク感と揚げ春巻きのサクサク感が楽しめる作品となっています。考案者の田中さんは一口サイズにしたことで、おつまみ感覚で楽しめる、中味の具材を変えらることで、子どもから大人までおいしく味わうこともできると思い考案したそうです。

ジュニアアイデア部門三ツ星賞を受賞した『大洲箱ずし』は、考案者の石河さんの祖父も喜んで食べられるという箱ずしです。写真左側のいもたきの押し寿司は、いもたきの味付けをしたサトイモ、コンニャク、シイタケなどの具をご飯で挟み、味付けをした油揚げと薄焼き卵を乗せて押し寿司にしたものです。入賞作品は、可能なものについて商品化を進めていきます。その詳細は、大洲市ホームページなどで公表していきます。

【各部門の受賞者】

【作品プロ部門】

▽三ツ星賞

兵頭洋三

▽二ツ星賞

菊地亮一

▽審査員特別賞

菊澤洋、善家一光

【作品アマ部門】

▽三ツ星賞

田中千景

▽二ツ星賞

尾形茄奈子

▽審査員特別賞

沖野愛莉、上田春香

【ジュニアアイデア部門】

▽審査員特別賞

上野マリエ

▽三ツ星賞

石河芳紀

▽審査員特別賞

角藤桃香、近藤春季

(敬称略)